
~いるか~

伸縮自在

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

〜いるか〜

【Nコード】

N9463B

【作者名】

伸縮自在

【あらすじ】

僕は君が好きだった。でも君は死んでしまった。僕は君を探す。いるか？いるか？いない？

君がいれば、僕は満ち足りていた。
君がいるだけで、僕には世界が光に溢れて、すごく明るく見えた。
君は僕の希望だった。

そう思っていた。

そう思っていたから、僕は君を遠くから見ているだけで良かったし、
何気ない話をしているだけで満足だった。

ある時君は、すごく眠たそうな顔で学校に来た。

だから僕は、

「大丈夫？」

と訊いた。

「…………大丈夫じゃない」

君は呟いた。

「ちゃんと寝てる？」

「…………寝ているか」

「いや、僕が聞いているんだけど…………」

僕が困っていると、君は言った。

「『寝ている』って答えるだけじゃつまらないから、最後に『か』

をつけて、『いるか』にしてみただけ。ほら、よく『五時』って答

えるときに、『ら』をつけて『ゴジラ』って言ったりするじゃない

？ それと同じよ」

「ああ、そういうことか」

授業の始まりを告げるチャイムが鳴った。

それが、最後に君と話した言葉だった。

君はその日、交通事故で車に轢かれて死んでしまった。

そして僕は思った。

果たして、僕の想いは君に届いていたのだろうか？

夢の中で、僕は必死に君を探した。

いるか？

いるか？

いない？

僕は何度も何度もそれらの言葉を口にした。

いるか？

いるか？

いない？

いるか？

そして僕は気づいた。

僕の言葉の中に、君がいたことに。

(「 『寝ている』 って答えるだけじゃつまらないから、最後に『か』をつけて、『いるか』にしてみただけ。ほら、よく『五時』って答えるときに、『ら』をつけて『ゴジラ』って言ったりするじゃない？ それと同じよ」)

僕は君の言葉を思い出した。

僕の中に、実は君がいた。

知らず知らずのうちに、僕は君を手に入れていた。

すると突然、目の前が明るくなった。

僕の前に、君がいた。

僕は君に問うた。

「僕が君を好きだったこと、知ってたかい？」

「知っているか」

そして君は笑った。

目が覚めると、僕の頬を涙が伝った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9463b/>

～いるか～

2010年10月15日23時28分発行